

# 日本医療秘書実務学会 第8回全国大会 研究発表の概要

2017年9月10日(日)

**【研究発表】** (1行目は主発表者)

発表 10分 質疑 5分

時刻	発表者・共著者・タイトル・概要
11:20-11:35	<p>小林利彦 浜松医科大学医学部附属病院／医療福祉支援センター</p> <p>医療秘書専門学校における医療クラークの育成に向けたカリキュラム構築の試み 静岡県における民間の医療秘書専門学校において、今年度から医療クラークの育成を目指した教育プログラム(病院関連事務)を動かし始めた。カリキュラムの構築に向けて、模擬カルテ等の作成などを現在試みているが、一施設での教育ツールにとどまらず、全国の関係者が自由に利用できる仕組みを確立したいと考えている。当施設での現況を報告するとともに、全国各地の関係者との情報共有・情報活用を望んでいる。</p>
11:40-11:55	<p>小城美春 社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院／医療秘書室 百木絵理、谷端真理子、佐藤愛、村上美紀、垂水治樹、甲斐聖人 (済生会熊本病院 医療秘書室)</p> <p>当院の標準的な外来受診者をモデルに作成した「診療シナリオ」による新人教育 当院では医療秘書の業務展開に伴い段階的に増員を行っている。高度急性期医療を提供する慌ただしい現場において、新人スタッフ育成にかかる負担軽減は常に大きな課題であった。この課題を解決するために、当院の標準的な外来受診患者をモデルに作成した「診療シナリオ」を用いた教育を新たに開始した。より実践的で効果的な教育を目指した、その方法と効果について報告する。</p>
12:00-12:15	<p>久保覚司 関西女子短期大学</p> <p>病院事務員養成校における情報教育の必要性について 一般企業への就職を目指す学生にとって、ITの知識は必要不可欠なものとなっている。それは、電子カルテ等に触れる病院事務員を目指す学生も例外ではない。 では、ITの知識とはどの程度必要とされるのだろうか。 情報リテラシーやオフィスソフトの使い方について指導している養成校は多いが、それだけでは不十分であり、セキュリティやネットワークに関する知識も必要ではないだろうか。 そこでIT系国家資格の第一歩とされるITパスポート試験を基準として、本学シラバスと比較検討し結果を報告する。</p>
13:15-13:30	<p>田中伸代 川崎医療福祉大学 宮原勅治(川崎医科大学・川崎医療福祉大学) 山本智子、田村久美、黒木由美(川崎医療福祉大学)</p> <p>社会人対象の医療秘書教育プログラムの作成と実践 一文部科学省平成28年度「職業実践力育成プログラム」(BP)認定 クリニカルセクレタリー育成プログラムー 社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大は広く求められるところである。川崎医療福祉大学医療秘書学科では、社会人対象の高度な医療秘書教育プログラムとして、平成28年度に文部科学省の「職業実践力育成プログラム」(BP)認定を受け、本年4月より実践している。 本発表では、遠隔地からの受講を含む社会人教育プログラム作成の具体例と課題について報告する。</p>
13:35-13:50	<p>藤原はるな シムラ病院／メディカルアシスタント課 坂田恵梨子(メディカルアシスタント課)、村田英明(診療部)</p> <p>カルテ代行入力の内容評価を用いた院内学習取り組み効果の調査 昨年度、診療補助業務の質向上のため、院内学習を充実させてきた。その取り組みとして、医師による勉強会、メディカルアシスタントによる勉強会を実施し、医局カンファレンスに参加した。この学習方法が有用と思われたので学会にて紹介をしたが、その具体的な効果については明らかにできなかった。今年度は、取り組み効果を検証するため実際にどのように質が向上したかカルテ代行入力の内容調査を行った。その調査の結果と、今後の課題について報告する。</p>

時刻	発表者・共著者・タイトル・概要
13:55-14:10	<p>泉 浩実 関西女子短期大学／医療秘書学科 西山良子、久保覚司（関西女子短期大学医療秘書学科）</p> <p>医師事務作業補助業務の病院実習を導入して 一人材育成の課題と今後の展開 医師事務作業補助者が臨床で認められ、医療秘書の領域として確立されてきたところである。本学卒業生も新卒でこの業務に就く機会が増えるなか、優秀な人材をどのように育成すべきか検討を重ねている。何より病院実習が効果的と考え、従前の実習とは別に新たな研修導入を試みた。2週間という短期間であったが、現場スタッフの取り組みに直接触れて深く学べたと、学生からは好評であった。今後の課題を含めて報告する。</p>
14:15-14:30	<p>武村順子 宮崎学園短期大学</p> <p>宮崎における病棟クラークの職務に関する課題についての一考察 ～卒業生調査をもとに～ 「病棟クラーク」に関しての先行研究では、病棟内に事務職員を積極的に配置し、機能させ、その効果を報告した事例もある。しかしながら、病棟からの業務依頼による事務業務の中断などのデメリットについても数多く指摘されている。また、それらの多くには、事務業務中断が招く具体的な現状については述べられていない。 本研究では、「病棟クラーク」の職務について、先行研究から課題を探り、卒業生調査を基に宮崎での状況について明らかにするとともに、事務業務中断が招く具体的な現状についてまとめ考察することを目的とする。</p>
14:50-15:05	<p>坂田恵梨子 医療法人社団曙会 シムラ病院 藤原はるな（メディカルアシスタント課）、村田英明（医師）</p> <p>紹介状・返書作成システム確立に向けた取り組み 当院は外傷を中心とした外科病院として二次救急指定病院の看板を掲げている。2年前より整形外科疾患の患者層の開拓のため、当院で治療終了した患者の情報提供書をかかりつけ内科医へ送る事とした。目的は内科かかりつけ医をもつ高齢者をターゲットとした、潜在的な整形外科疾患の掘り起しである。本発表の目的はかかりつけ医への情報提供所の内容を紹介する事であり、その成果としてかかりつけ医からの整形外科疾患の紹介数の増減を調査した。</p>
15:10-15:25	<p>出 明理 医療法人友和会鶴田整形外科 池永雅子（医療法人友和会鶴田整形外科 医療情報部）、 鶴田敏幸（医療法人友和会鶴田整形外科）</p> <p>医療秘書業務の改善と他部署との連携 当診療所外来での医療秘書業務の一つに、診療情報提供書・返書作成、それに伴う画像データ CD 作成業務がある。今回、これら一連の作成時間短縮に取り組んだ。 診療は医師・看護師・カルテ代行入力担当の医療事務の3名が各診察室を移動するため、各書類・CDは診察室では作成できない。医療秘書が依頼を受け、別ブースで作成する。その際、業務連携を要するのは看護師、医療事務、放射線技師であり、時間短縮の鍵は①他部署との連携、②専門的知識の向上であった。</p>
15:30-15:45	<p>村上美紀 済生会熊本病院／医療秘書室 垂水治樹、甲斐聖人（済生会熊本病院 医療秘書室）</p> <p>当院で求められる事務職員の人材像と雇用制度変更による効果について 済生会熊本病院では様々な雇用形態があり、医療秘書室では約60名が派遣・契約・嘱託職員として勤務している。2016年度から専門正職員という雇用形態ができ、昇格試験が行われている。所属長プレゼンに始まり、小論文や課題レポート、本人によるプレゼンなど行い、筆記試験も実施された。その結果、合計4名が専門正職員となった。試験に向けて取り組んだことでわかった求められる人材像、また、制度変更による効果について報告する。</p>
15:50-16:05	<p>板垣 綾 あいち腰痛オペクリニック 柴山元英（あいちせぼね病院）、野田真喜子（あいちせぼね病院・愛知腰痛オペクリニック）</p> <p>効率のよい外来診療を実現するクラークの育成と活用 ー導入から育成、活用へー 2017年1月末、愛知腰痛オペクリニックで電子カルテ移行に伴いドクタークラーク3名を導入、同年4月同一法人あいちせぼね病院開業に伴いクラーク2名を配置、現在クリニック整形外科3名に対して4名、病院2名の整形外科医2名に対しクラーク3名を配置している。電子カルテ代行入力が主な仕事であるが、クリニックと病院どちらも脊椎精密検査の報告書作成補助業務があるため、画像の解析も含めた医学知識の向上を図るため、クリニック、病院合同での院内勉強会を行っている。初診患者を主とする病院外来と再診患者の多いクリニックでの効率のよい外来診療への取り組みも併せて報告する。</p>